

平成25年度道徳教育実践研究事業実績報告書

1 研究指定校の概要

指定校名	藍住町立藍住東中学校
校長氏名	領田 佳之
所在地	徳島県板野郡藍住町住吉字若宮49-1
電話番号	088-692-6520
参考 URL	http://aitohjh.sakura.ne.jp/

2 研究課題

(1) 研究主題

人間としてよりよく生きていこうとする生徒の育成

(2) 設定理由

本校の生徒たちは、明るく素直で、真面目な生徒が多い。しかし、その一方で主体性や自ら解決していく力が十分に育っていない生徒もいる。また、生徒を取り巻く社会の変化による規範意識の低下も懸念されている。

そこで道徳教育の実践により、どのような生徒の育成をめざしていくか、ということを考えるためにあたり、本校の生徒・保護者・教員に道徳に対するアンケート調査、また、生徒の実態についての全教職員での協議を行った。

これらのことから、研究主題を「人間としてよりよく生きていこうとする生徒の育成」とするとともに、具体的には次の5つの項目について育成することにした。

- 1 生命の尊さを理解し、自他の生命を尊重する心
- 2 誰に対しても公正・公平であり、差別や偏見のない社会の実現に努める能力
- 3 基本的生活習慣を身につけ、規律を守り、礼儀と節度を重んじる意識
- 4 強い意志をもち、理想の実現をめざして自己の人生を切り拓いていく能力
- 5 思いやりをもって、互いに励まし合い高め合う心

3 研究の概要及び特色

校内の道徳教育推進体制や諸計画を充実させるとともに、教職員が道徳教育に対する共通理解を図り、共通の目標をもって取り組むことによって、よりよく生きていこうとする生徒が育成されるであろう、という研究仮説をたて、次のような内容で研究を進めていった。

(1) 道徳の時間と他の教育活動との関連

① 年間指導計画・別様の見直し

昨年度の道徳教育の実践をふまえ、効率的でより充実した道徳教育を推進するため年間指導計画・別様の見直しを行った。

② 各教科・総合的な学習の時間等での道徳教育の実践

③ その他の教育活動

生徒会活動などの様々な活動では、道徳的価値との関連性を意識して行った。

(2) 道徳の時間の充実

① 道徳パック（成果物）の活用・再編

道徳の授業で使う教材プリント、指導案・ワークシートなど（35週）を、各学年ごとにまとめて1冊のファイルに整理したもの（道徳パック）を使用した。毎時間の

教材研究やワークシート作成の時間の短縮を図ることができ、道徳の授業を効率的に行うことができた。また、新たな資料の開発や差し替えを行い、より充実した内容になるよう改善に取り組んだ。

② 授業研究会による研修

一つの授業を作り上げるために、教材分析をじっくりと行い、よりよい授業作りを目指した。学年団で研修を重ねることにより教師の授業力向上に努めた。また、気軽に研修を進めていく方法として「ミニ研」を行った。そのことにより、道徳の授業を参観する機会も増え多くの学びを得ることができた。



道徳パック



授業研究会



ミニ研による授業

(3) 家庭・地域社会との連携

道徳教育は、学校教育全体で行うのはもちろんのこと、家庭や地域社会とも大きく関わりをもつ。そのため、生徒のよりよい成長のためには、家庭や地域社会の果たす役割は大きい。地域での体験学習や行事への参加をとおして、さまざまな価値観に気づかせ、家庭や地域社会の一員としての自覚をもたせることで、よりよく生きていこうとする生徒を育成することができると考え、以下のような活動に取り組んだ。

① 体験学習（全学年）

1年生



福祉体験学習

2年生



職場体験学習

3年生



保育実習

地域の方々や職場の方々とのふれあいの中で、人としてのよりよい在り方や生き方に気づき、地域の一員としての自覚を高めることができた。

② 道徳落語公演会

家庭と同一歩調で生徒の道徳性を育むことを目的として、保護者と生徒を対象とした公演会を実施した。

- ・演者 笑福亭 純瓶
- ・演目 「俺がルールだ」

公演を聞くことで、自分の行動を振り返ることができ、今まで気づかなかった価値に気づいたり、感動したりして道徳的価値を深めることができた。



4 研究の成果

- ・学校の教育活動全体において、道徳的価値を意識した教育活動が図れた。
- ・地域行事の参加や体験学習での様々な人との出会いや触れ合いを通して、社会を構成する一員であるという意識が高まった。

5 今後の課題

- ・家庭への啓発をより積極的に行い、授業参観や講演会、保護者会のもちかたを考えていく。
- ・これまでの実践を継続し、また研修を通して得た成果をより深化させていく。